

2020年度 決算説明会資料

2021年5月12日

きんでん

Kinden

目次

1. 社長挨拶

- (1) 業績ハイライト … 3
- (2) 今期業績見通し … 4

2. 業績の状況

- (1) 【連結】前期比較 … 6
- (2) 【連結】予想との比較 … 7
- (3) 【個別】前期比較 … 8
- (4) 【個別】予想との比較 … 9
- (5) 【個別】工事種別の状況（受注） … 10
- (6) 【個別】工事種別の状況（完成） … 11
- (7) 【個別】工事種別手持工事高の状況 … 12
- (8) 【連結】海外受注・完成工事高の状況
(地域別) … 13
- (9) 【連結】キャッシュ・フローの状況 … 14
- (10) 【連結】貸借対照表の状況 … 15
- (11) 【連結】販売費及び一般管理費の状況 … 16

3. 業績分析

- (1) 【連結】完成工事高の増減要因 … 18
- (2) 【連結】営業利益の増減要因 … 19
- (3) 【個別】完成工事高 受注時期別
(配電工事を除く) … 20

4. 業績予想

- (1) 【連結】通期予想 … 22
- (2) 【個別】通期予想 … 23

5. 株主還元

- (1) 配当について … 25
- (2) 自己株式の取得結果及び消却について … 26

6. 参考資料

- 主な受注工事（受注金額5億円以上） … 28

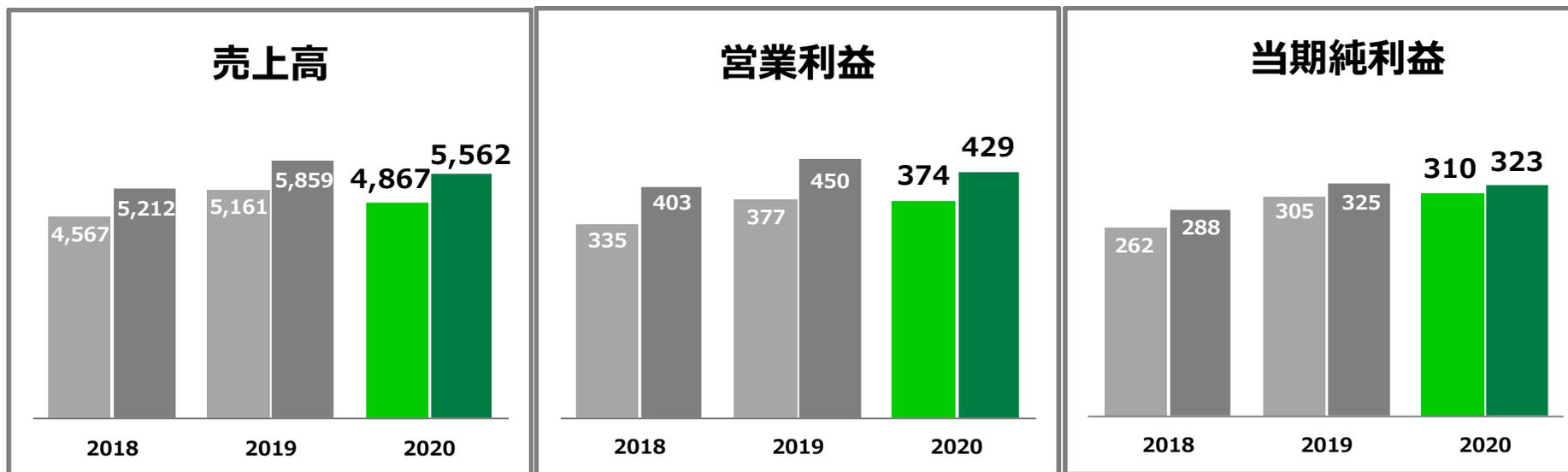
1. 社長挨拶

(1) 業績ハイライト

- 連結・個別共に、売上高は減収、営業利益、経常利益は減益、純利益は連結は微減、個別は微増も、順調な決算で終わることが出来た。
- 個別決算では、受注は一部新型コロナウイルス感染症の影響で計画中止や延期の案件があったが、前期並みを確保。売上は前期の稼働ピークから一段落し、減少したものの、概ね順調に推移。また、発送電分離後も関西電力送配電(株)からは一定の発注があり、計画通り推移した。

■ 個別 ■ 連結

(単位:億円)



(2) 今期業績見通し

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中、設備投資にブレーキがかかり、受注競争の激化、価格競争の激化が懸念される。

- ・ 幅広い顧客基盤
- ・ あらゆる建物用途・物件に対応できる技術力・施工力

最大限に活かし、業績確保に向け、取り組んでいく

今期より新中期経営計画スタート、「持続的成長・発展」へ

2. 業績の状況

(1) 【連結】前期比較

■ 完成工事高、各利益ともに減少

- ・ 特別利益の増加、特別損失の減少により、純利益は微減にとどまった。
- ・ 営業利益率は横ばい

(単位:百万円)

	2019	2020	増減	増減率
完成工事高	585,905	556,273	△ 29,632	△ 5.1%
完成工事総利益	101,318	99,231	△ 2,087	△ 2.1%
完成工事総利益率	17.3%	17.8%	0.5	-
販売費及び一般管理費	56,291	56,283	△ 8	△ 0.0%
営業利益	45,026	42,948	△ 2,078	△ 4.6%
営業利益率	7.7%	7.7%	0.0	-
経常利益	46,727	44,794	△ 1,932	△ 4.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	32,500	32,356	△ 144	△ 0.4%
1株当たり当期純利益	150.19 円	156.46 円	6.27 円	

(2) 【連結】 予想との比較

- 完成工事高、各利益ともに予想（2021.1修正発表）を上回った
 - ・ 第4四半期の完成工事高
予想1,710億円→実績1,856億円（主にきんでん個別が増加）
 - ・ 第4四半期の完成工事利益率
予想17.2%→実績18.0%

(単位:百万円)

	予想	実績	差額	率
完成工事高	542,000	556,273	14,273	2.6%
営業利益	38,500	42,948	4,448	11.6%
営業利益率	7.1%	7.7%	0.6	—
経常利益	40,000	44,794	4,794	12.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	29,000	32,356	3,356	11.6%

(3) 【個別】 前期比較

- 完成工事高は減収
- 営業利益・経常利益は若干減少、純利益は若干増加
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響は、軽微にとどまった
 - ・ 特別利益の増加、特別損失の減少により、純利益は増加

(単位:百万円)

	2019	2020	増減	増減率
受注工事高	500,924	507,222	6,297	1.3%
完成工事高	516,196	486,705	△ 29,490	△ 5.7%
完成工事総利益	85,662	84,561	△ 1,101	△ 1.3%
完成工事総利益率	16.6%	17.4%	0.8	—
販売費及び一般管理費	47,961	47,064	△ 897	△ 1.9%
営業利益	37,701	37,496	△ 204	△ 0.5%
営業利益率	7.3%	7.7%	0.4	—
経常利益	42,095	41,541	△ 554	△ 1.3%
当期純利益	30,576	31,065	488	1.6%
1株当たり当期純利益	141.30 円	150.22 円	8.92 円	

(4) 【個別】 予想との比較

■ 完成工事高、各利益ともに予想（2021.1修正発表）を上回った

・ 第4四半期の完成工事高

予想1,470億円→実績1,590億円 （一般電気工事、情報通信工事が増加）

・ 第4四半期の完成工事利益率

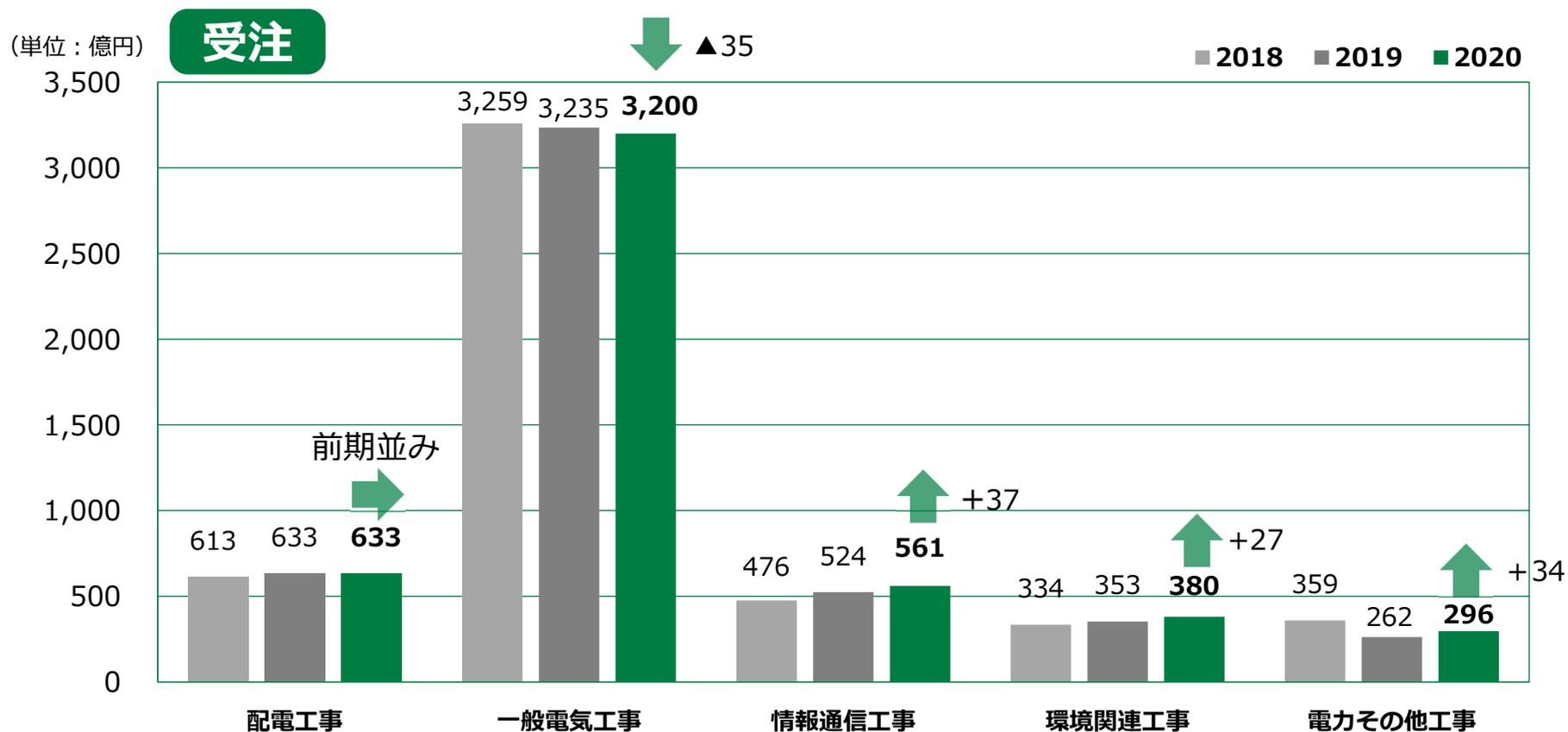
予想16.5%→実績17.6%

(単位:百万円)

	予想	実績	差額	率
完成工事高	475,000	486,705	11,705	2.5%
営業利益	34,000	37,496	3,496	10.3%
営業利益率	7.2%	7.7%	0.5	-
経常利益	37,500	41,541	4,041	10.8%
当期純利益	28,500	31,065	2,565	9.0%

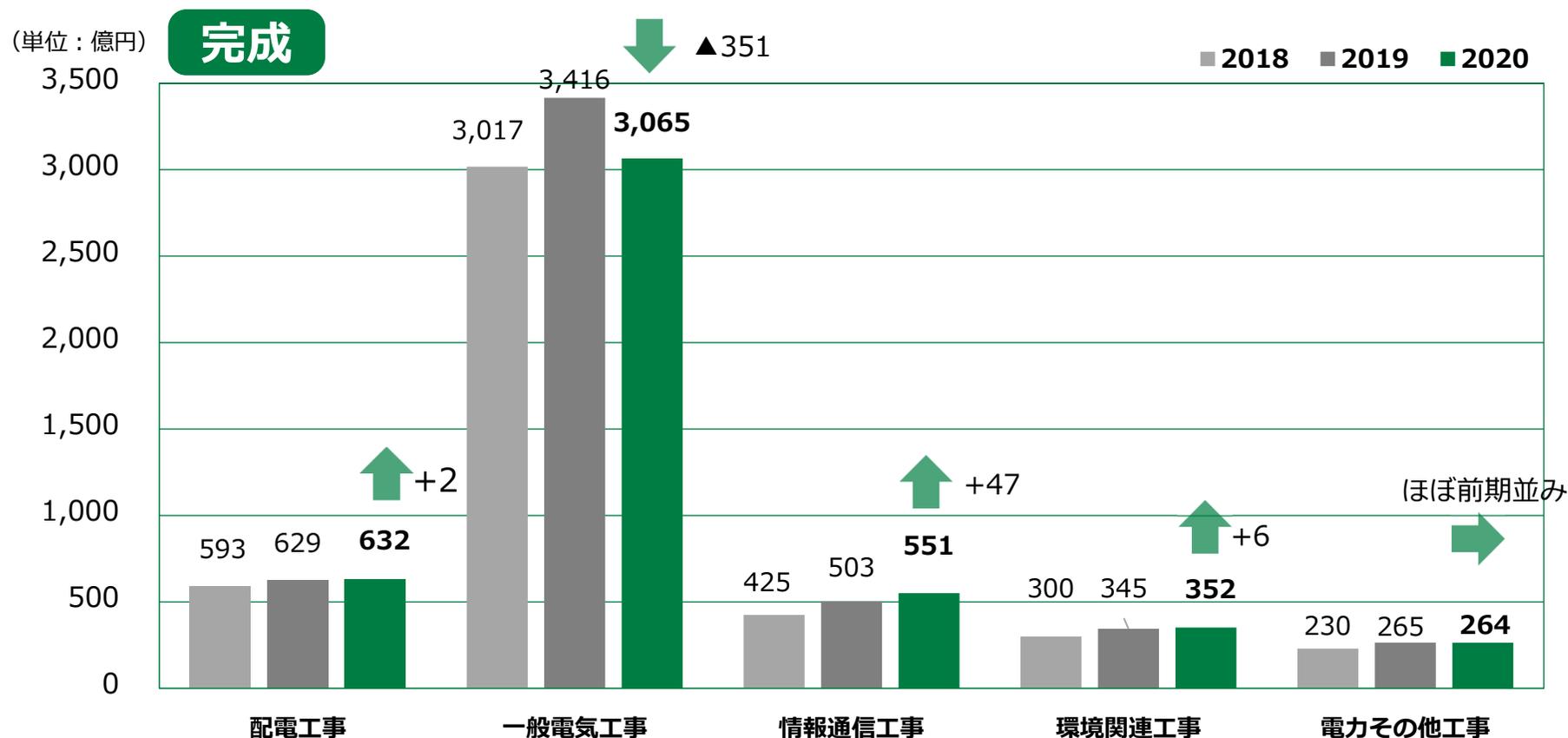
(5) 【個別】工事種別の状況（受注）

- ・一般電気工事は若干減少したが、配電工事は前期並み、情報通信工事、環境関連工事、電力その他工事は増加し、受注額合計は62億円増加した。
- ・感染症の影響は軽微であったが、受注時採算は厳しさを増している。



(6) 【個別】工事種別の状況（完成）

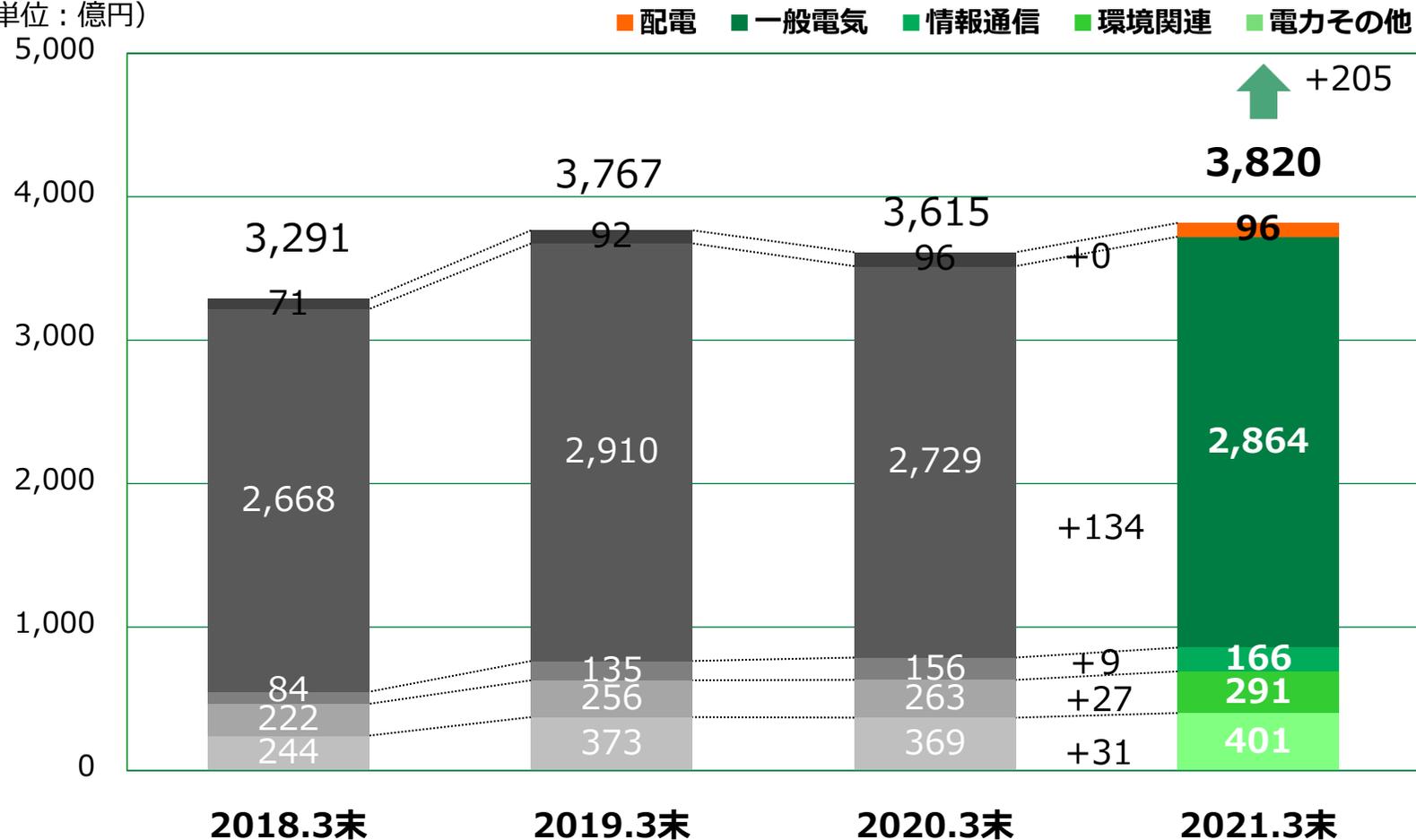
- ・一般電気工事の減少は、期首手持工事高の当期中の工事の進捗が前期首より減少していたことに加え、当期受注工事の完成工事高も感染症の影響で減少したことによる。
- ・その他の工事種別については、感染症の影響はほぼなく堅調であった。



(7) 【個別】 工事種別手持工事高の状況

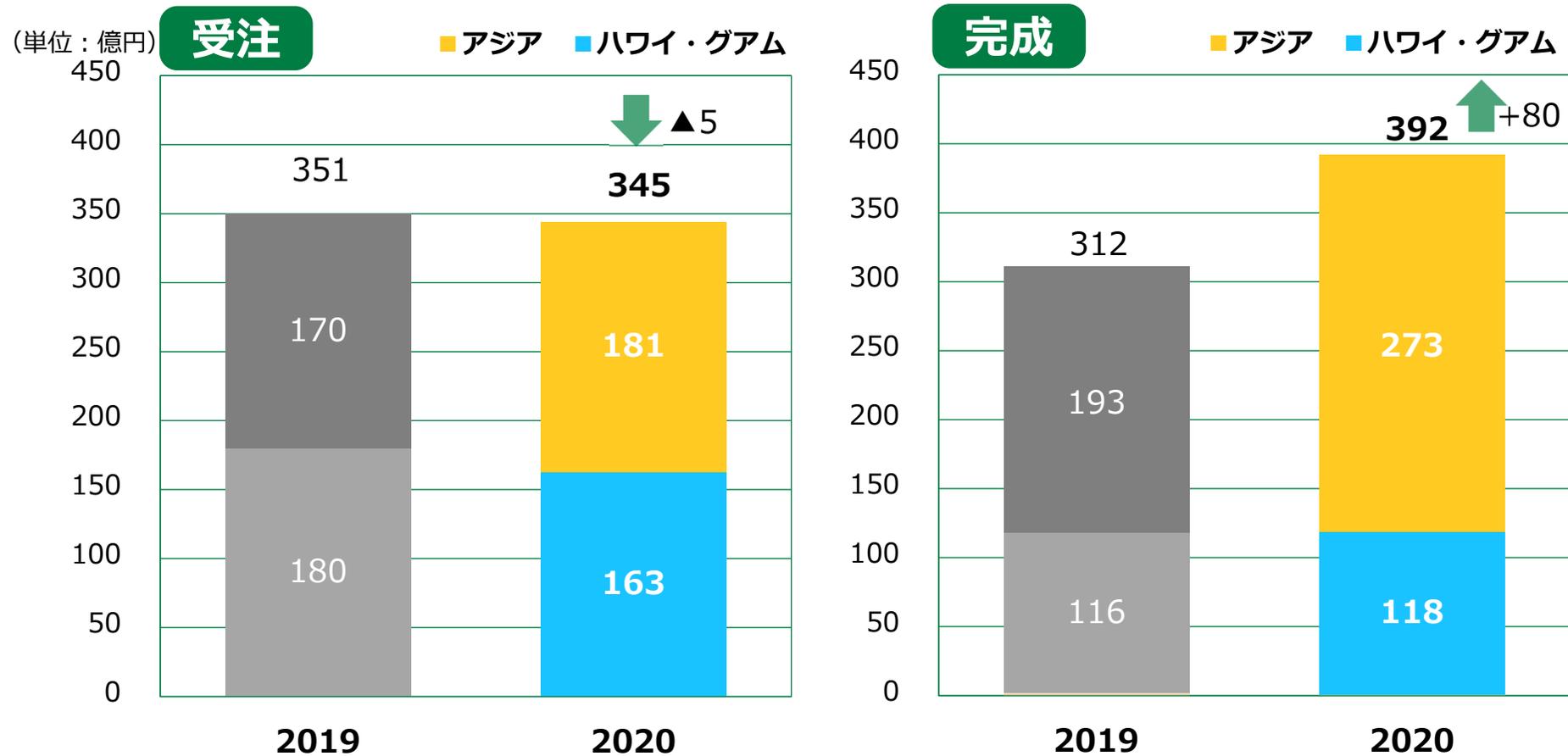
手持工事高は前期末より205億円増加し、引き続き高水準を維持しているが、手持工事利益率は若干の低下傾向。

(単位：億円)



(8) 【連結】海外受注・完成工事高の状況（地域別）

- ・アジアには当期より連結子会社となった I E M S 社(ドバイ)の実績が含まれており、I E M S 社を除くと、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、受注高、売上高ともに前期を下回った。



(9) 【連結】キャッシュ・フローの状況

営業CFは前期より若干減少、投資CFは減少、財務CFは自己株式の取得が継続し前期並みとなった。現金及び現金同等物は201億円増加した。

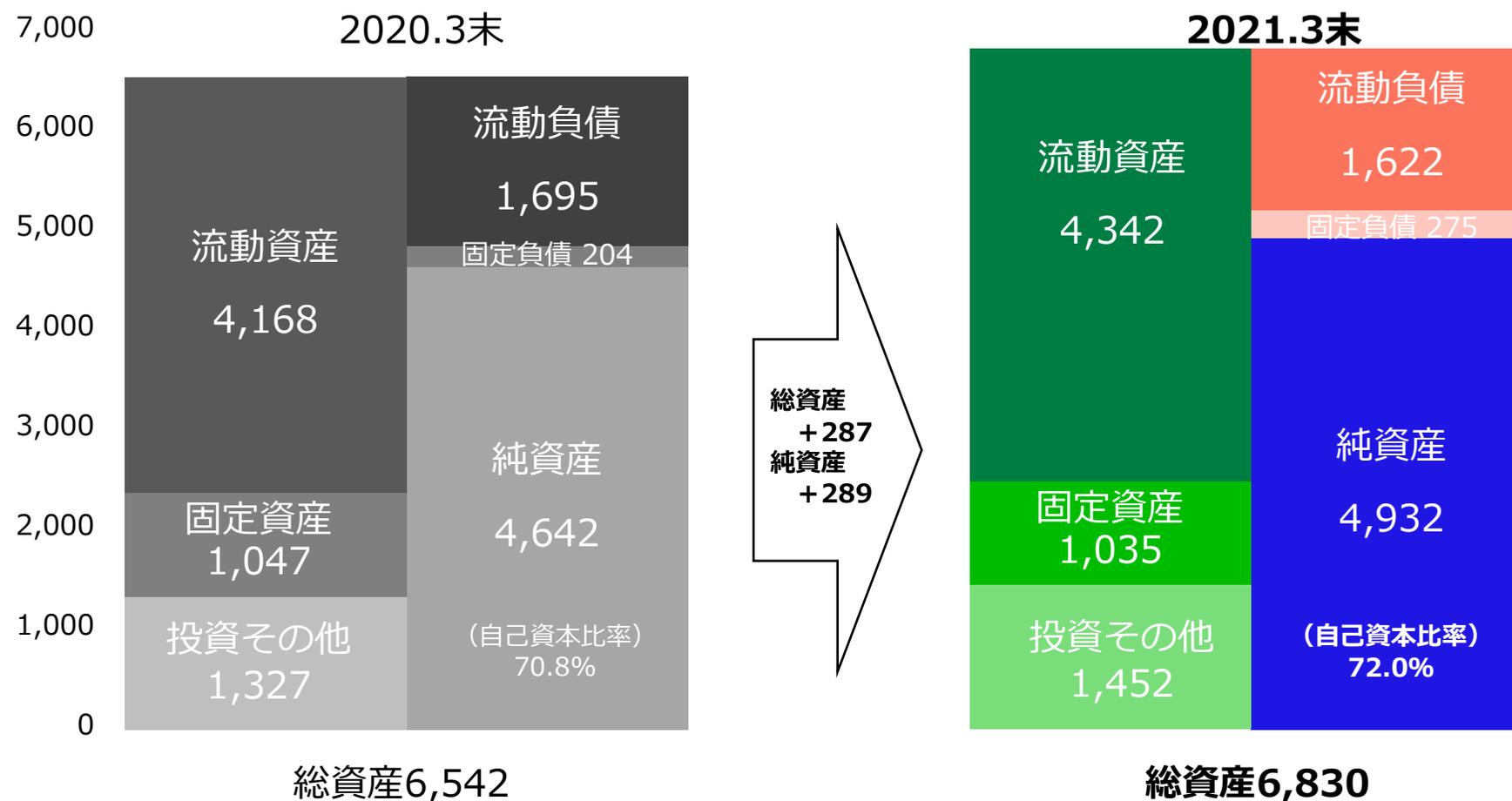
(単位:億円)

	2019	2020		
	実績	実績	主な内容	前期比較
営業活動によるキャッシュ・フロー	467	433	当期純利益の計上 +474	△33 ↓
			売上債権の増加 +113	
			仕入債務の減少 △136	
			法人税等の支払 △151	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 289	△ 58	固定資産の取得 △46	+230 ↑
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 157	△ 172	自己株式の取得 △110	△15 ↓
			配当金の支払 △68	
現金及び現金同等物の増減額	18	201		+183 ↑
現金及び現金同等物の期末残高	1,490	1,691		+201 ↑

(10) 【連結】貸借対照表の状況

前期末と比較し、総資産は287億円増加、純資産は289億円増加し、自己資本比率は72.0%となった。

(単位：億円)

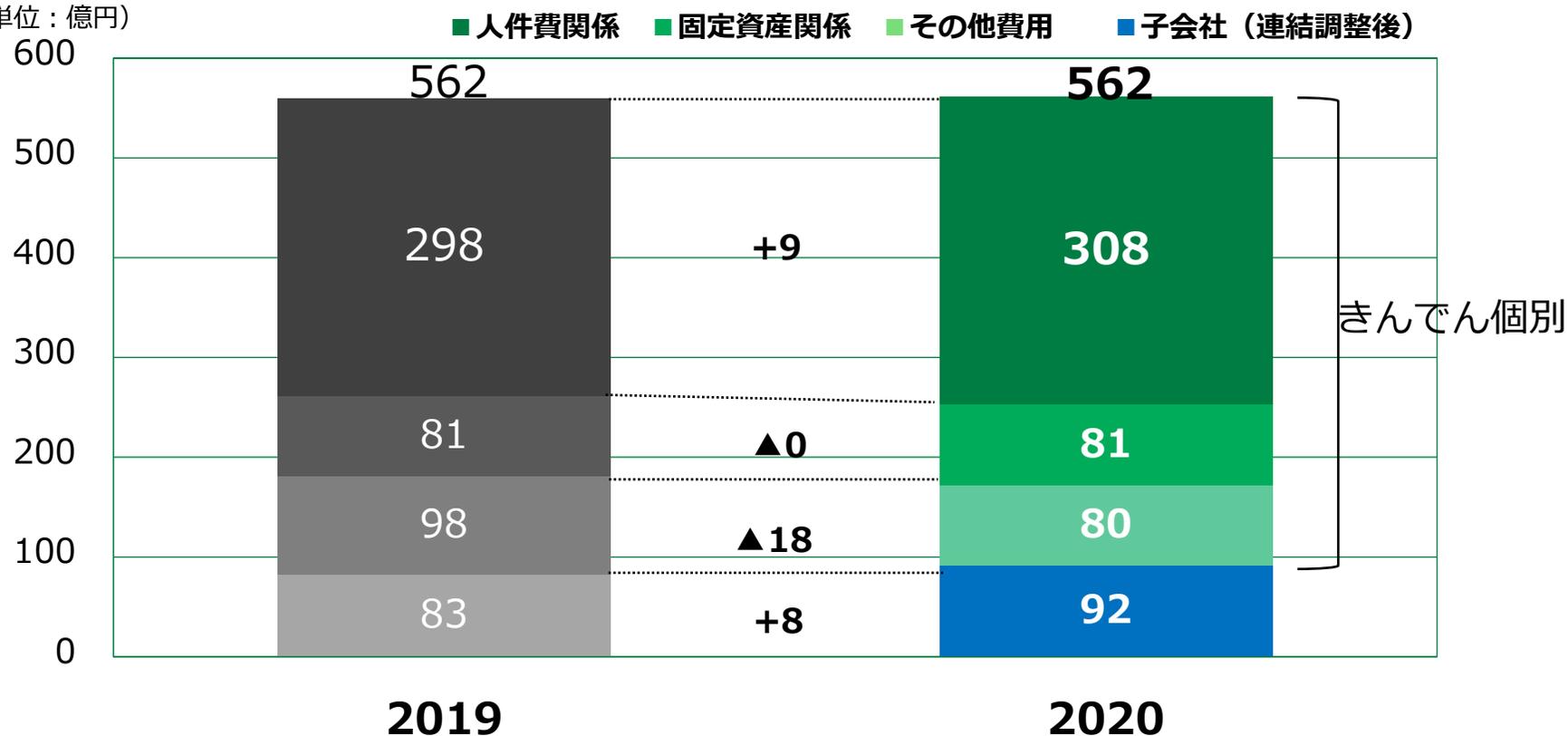


(11) 【連結】販売費及び一般管理費の状況

■ 販管費はほぼ前期並みとなった

- ・ きんでん個別で人件費が若干増加したものの、交通費等の経費が減少し、前期より8億円減少した。
- ・ 子会社でIEMS社の新規連結等により、8億円増加した。

(単位：億円)

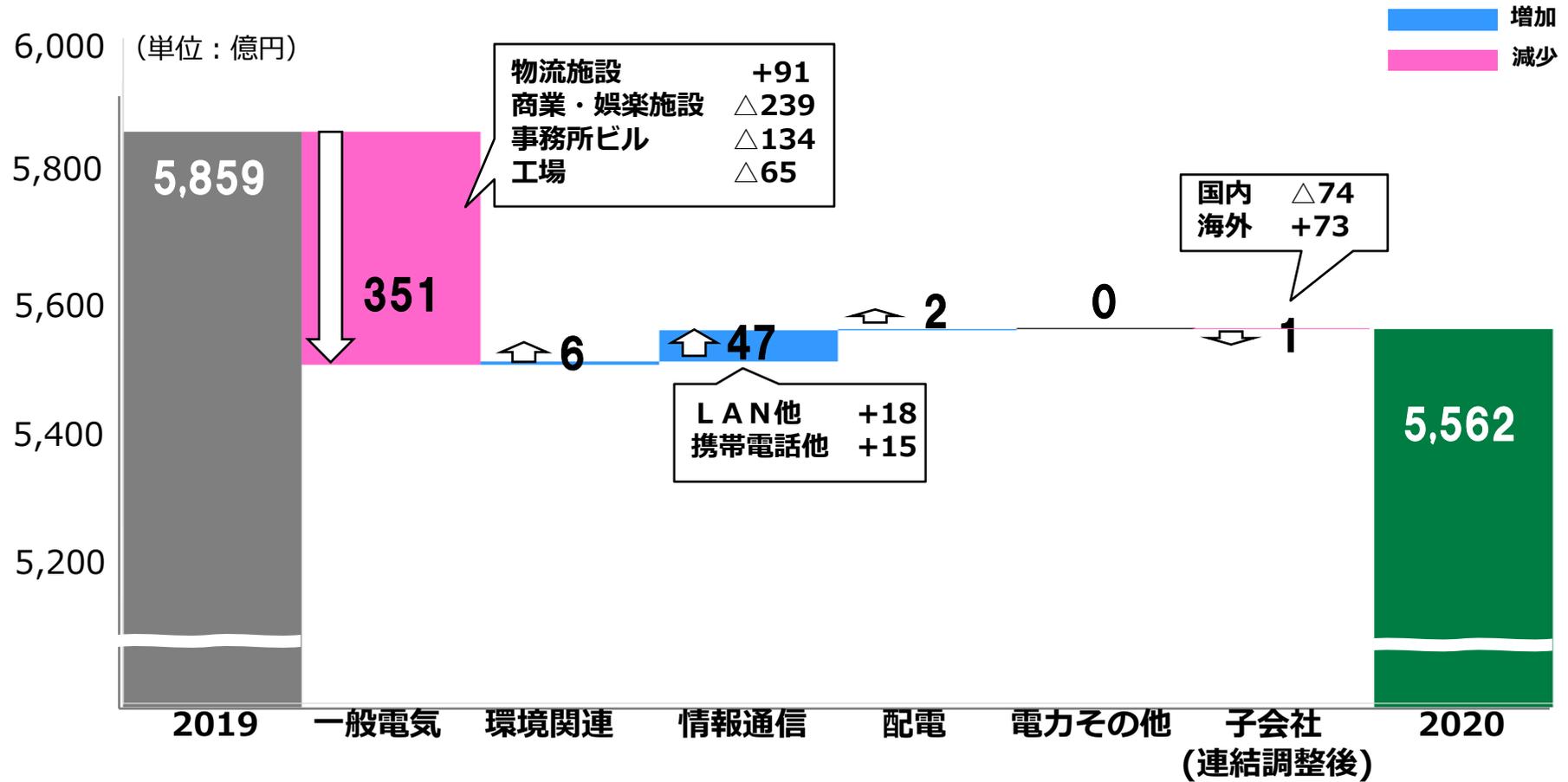


3. 業績分析

(1) 【連結】完成工事高の増減要因

■ 対前期296億円の減少

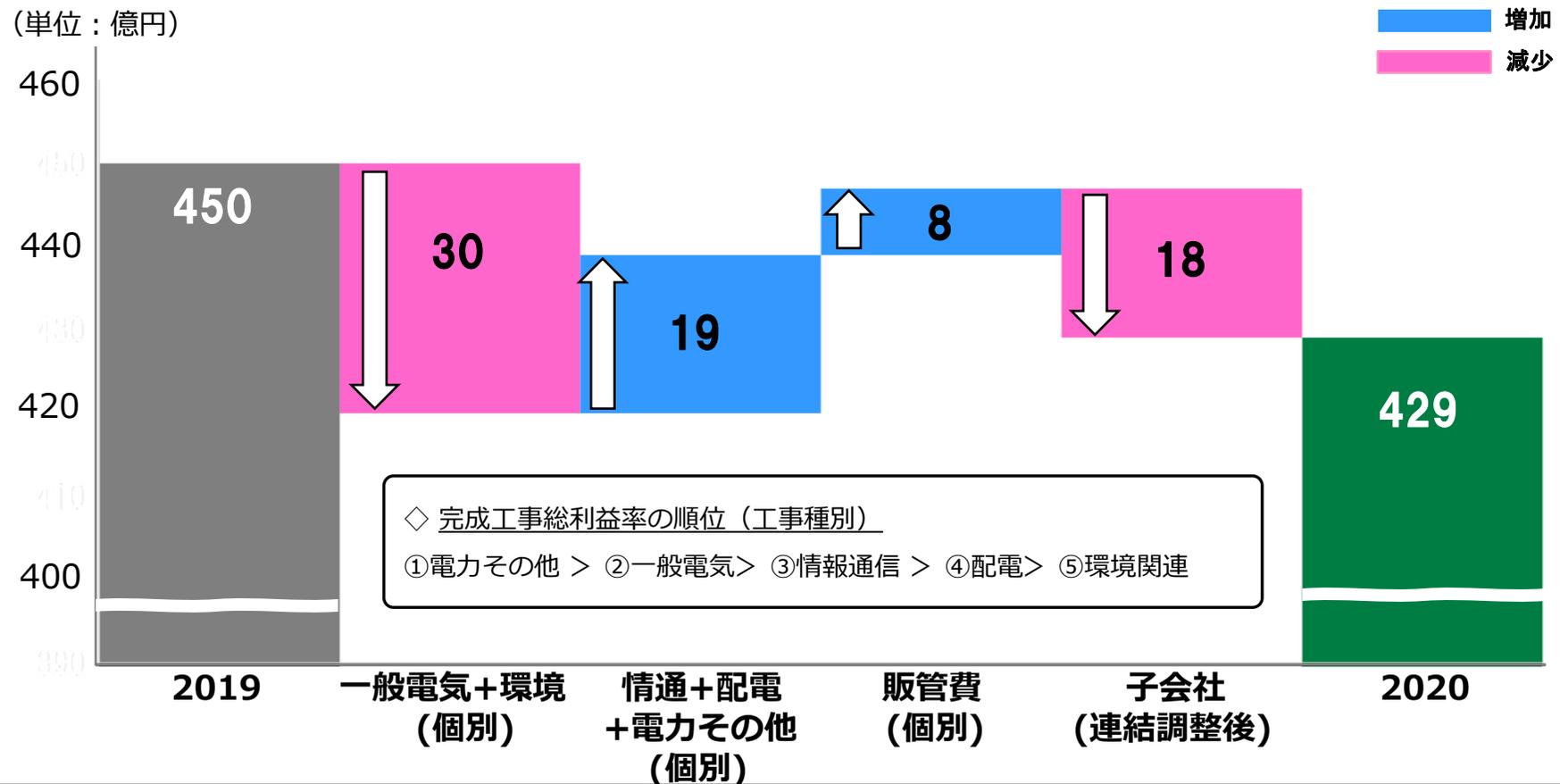
- ・ 一般電気工事が減少
- ・ きんでん個別の情報通信工事などが増加



(2) 【連結】 営業利益の増減要因

■ 対前期20億円の減少

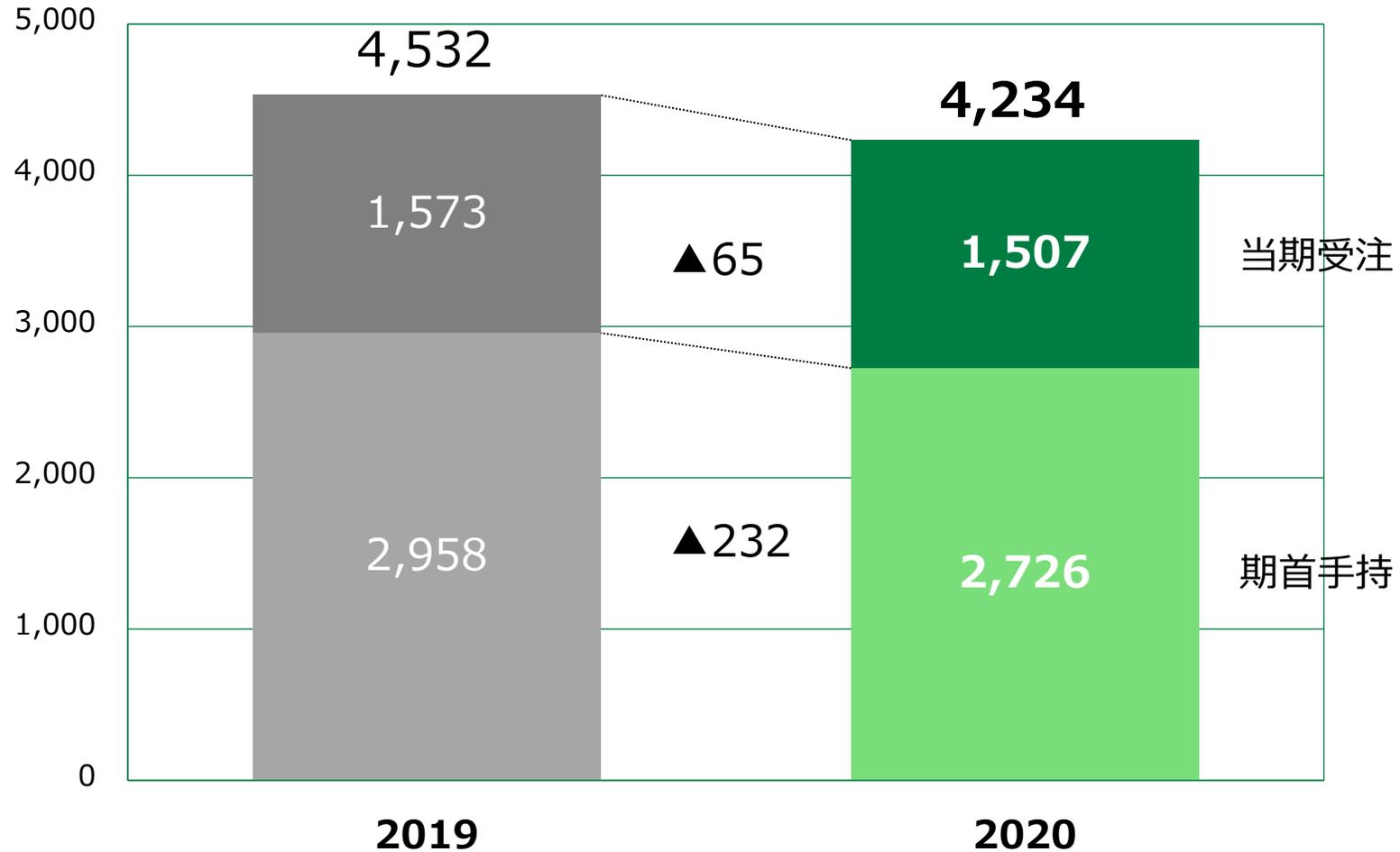
- ・ きんでん個別の一般電気+環境関連工事の工事利益と子会社が減少
- ・ 情報通信+配電+電力その他工事の工事利益等が増加



(3) 【個別】完成工事高 受注時期別（配電工事を除く）

- ・ 期首手持工事高が前期首より減少していたことにより、工事進捗による完成工事高は減少した。
- ・ 当期受注からの当期完成工事高も減少した。

(単位：億円)



4. 業績予想

(1) 【連結】通期予想

- 完成工事高は減収
- 各利益は減益
 - ・ きんでん個別は減収減益予想
 - ・ 子会社（特に海外子会社）はコロナ禍の影響が継続しており、増収減益と予想

(単位:百万円)

	2020	2021予想	差額	率
完成工事高	556,273	548,000	△ 8,273	△ 1.5%
営業利益	42,948	36,600	△ 6,348	△ 14.8%
営業利益率	7.7%	6.7%	△ 1.0	—
経常利益	44,794	38,700	△ 6,094	△ 13.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	32,356	26,300	△ 6,056	△ 18.7%
1株当たり当期純利益	156.46 円	128.33 円	△28.13 円	

(2) 【個別】通期予想

■ 完成工事高は減収

■ 各利益は減益

- ・ 完成工事高は、一般電気工事が減少する見込み
- ・ 完成工事高の減少、工事利益率の低下、一般管理費の増加により、各利益は減少すると予想

(単位:百万円)

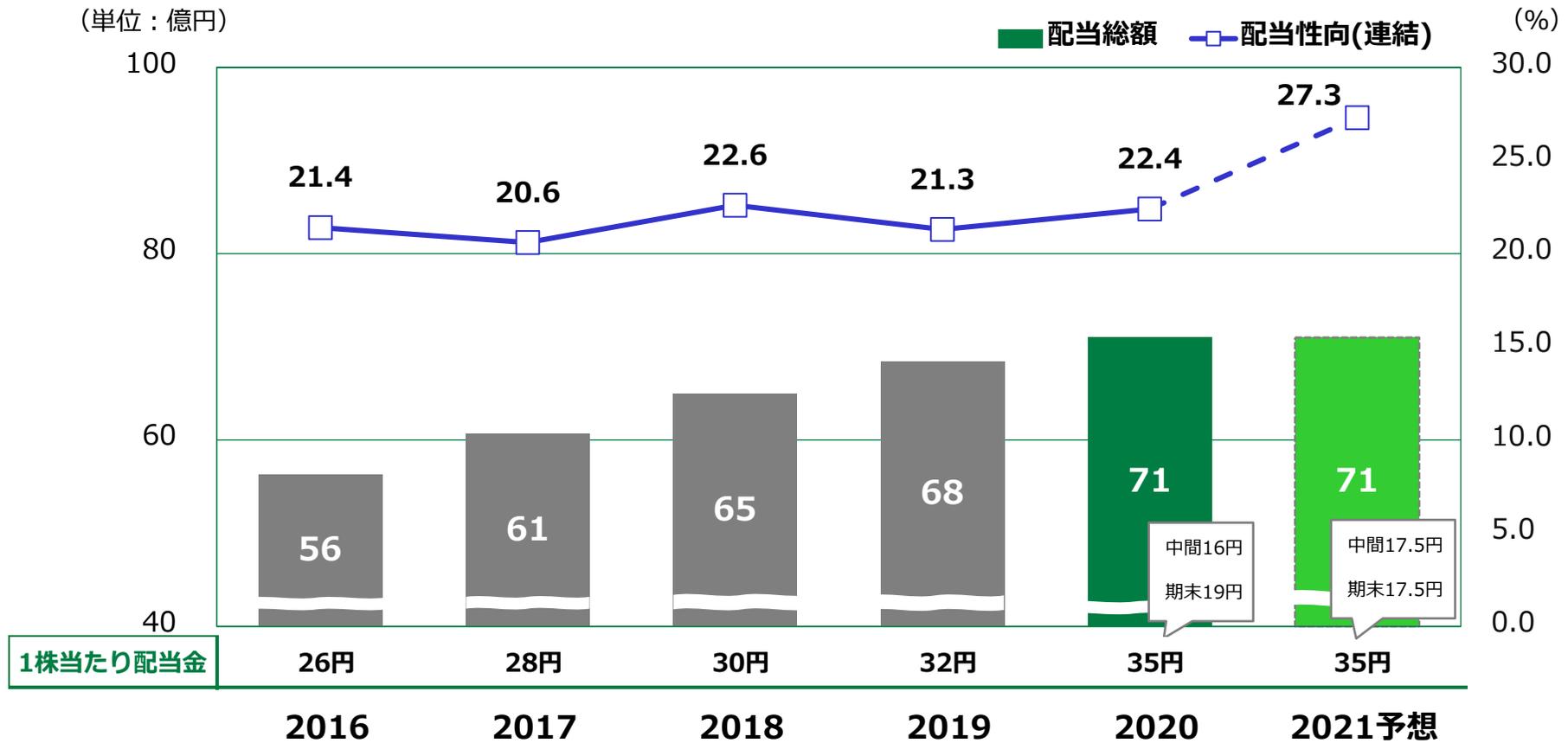
	2020	2021予想	差額	率
受注工事高	507,222	490,000	△ 17,222	△ 3.4%
完成工事高	486,705	475,000	△ 11,705	△ 2.4%
営業利益	37,496	32,000	△ 5,496	△ 14.7%
営業利益率	7.7%	6.7%	△ 1.0	—
経常利益	41,541	36,000	△ 5,541	△ 13.3%
当期純利益	31,065	25,000	△ 6,065	△ 19.5%
1株当たり当期純利益	150.22 円	121.98 円	△ 28.24 円	

5. 株主還元

(1) 配当について

配当方針

株主各位への利益配分は経営の重要課題の一つと位置付け、安定的かつ継続的な配当を基本方針とし、業績及び財務の状況を踏まえて実施していく。



(2) 自己株式の取得結果及び消却について

2020年2月3日～12月2日の間に1,200万株（198億円）を取得し、2021年2月26日に1,300万株を消却（発行済株式総数の5.96%）

1. 自己株式の取得結果

(1) 取得対象株式の種類	当社普通株式
(2) 取得した株式の総数	12,000,000株
(3) 株式の取得価額の総額	19,800,180,399円
(4) 取得方法	東京証券取引所における市場買付け
(5) 取得期間	2020年2月3日～2020年12月2日（約定ベース）

2. 自己株式の消却

(1) 消却した株式の種類	当社普通株式
(2) 消却した株式の総数	13,000,000株（消却前発行済株式総数に対する割合5.96%）
(3) 消却後の発行済株式総数	205,141,080株
(4) 消却日	2021年2月26日

6. 參考資料

主な受注工事（受注金額 5 億円以上）

工事名	工事種別	施工場所
京都競馬場整備に伴う電気設備工事(スタンド工区)	一般電気	京都府
(仮称) 彩都粟生北ビル新築に伴う電気設備工事	一般電気	大阪府
(仮称) みなとみらい 2 1 中央地区 3 7 街区開発計画	一般電気	神奈川県
虎ノ門 2 丁目地区 (再)特定業務代行施設建築物建設工事 (電気設備工事)	一般電気	東京都
大阪健康安全基盤研究所等一元化施設整備に伴う機械設備工事	環境関連	大阪府
横浜みなとみらいホール改修工事 (共用部電気設備工事)	情報通信	神奈川県
関谷 4 案件太陽光 自営線工事	電力その他	栃木県
須原大井線No. 3 1 ~No. 4 0 (木曾幹線併架) 改良工事・これに伴う除却工事	電力その他	長野県
入国管理局ビル増改築電気設備工事	一般電気	シンガポール

■ お問い合わせ先

株式会社きんでん IR・広報部 IRチーム

〒531-8550 大阪市北区本庄東2丁目3番41号

電話 06-6375-6026